

## 序章 本研究の意義と目的

現代の私たちは、さまざまな事がらが複雑に絡み合う社会に生きている。一国の景気の浮沈も国内政策だけで解決することはもはや不可能なように、かつて国家の問題と考えられてきた事が、実は世界的な出来事と密接な関係をもっている時代となった。まさにグローバリゼーションは、個人を取り巻く地域社会・国家・国際というような単純な同心円でとらえられるものではなく、個々人の生活に文字通り切り込んでいるものであるといえよう。とりわけ若い人々にとって、人生の共通のモデルのようなものはもはや思い描くことはできず、未来は混沌として見えてしまうのが現代社会であろう。

このような国際社会をしたたかに生き抜き、他者と共に持続可能な社会を作っていくために、あるいは国際社会で活躍する人材を育成するために、教育は何ができるであろうか。

OECD は同様の問題意識に立ち、現代と未来にわたる普遍的な新しい能力観として、3つのキー・コンピテンシーを提示している。これは平たく言えば、互いに異なった人と良い関係を作りながら、大きな見通しを持って行動し、様々なツールを相互作用的に活用する力を意味する。教育は学校に限定されるものではないが、今日ほとんど全ての人が通う中等教育の学校において、キー・コンピテンシーを育てることは重要な意味をもつと信ずる。

中高一貫教育校では、その形態の違いは別として、一貫した方針のもと、じっくりとこれらの能力を育てるプログラムを実行することができる。このことは、多くのものを吸収しつつ著しく成長する青年期の若者にとって、非常に有益である。

本学院は創立 120 年を迎えた歴史ある学園である。中学校・高等学校では活発な生徒会活動・ホームルーム活動や、徹底的な事前学習を行っての修学旅行・校外学習といった長い蓄積がある。その上に、中高一貫コースでは「協働」「自律」「活用」といった国際標準の学力を育てるため、探究学習やプロジェクト型宿泊研修を実施している。また高等学校でも近年プロジェクト・ベース学習に取り組んでいる。さらに尚綱学院大学との高大連携による PBL の取り組みも数年来行っている。

これらの取り組みのうち、特にプロジェクト型宿泊研修の効果的な展開について実践的に研究することで、広く中高一貫校の特色的な教育活動に資することが本研究の目的である。